



発熱外来を受診される患者さまへ

<電話連絡時にお伺いすること>

- ・現在の症状
- ・いつ頃から症状が出たのか
- ・ここ数日の行動
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触の有無
(当院に受診歴のある方は診察券もご準備ください)



発熱(37.5度以上)、せき、たん、のどの痛みなどの風邪症状や強い倦怠感、味覚障害などの症状で「**発熱外来**」(月～金曜日 9:00～11:00、※8月11日「山の日」は休診)の受診をご希望の方は、ご来院前に電話連絡をお願いいたします。

<発熱外来の予約>

・月曜～土曜日 8:00～17:00

TEL:04-7099-1111(亀田クリニック予約センター)

※本来の救命救急活動に支障が出ないように、救命救急センターでは新型コロナPCR検査は行っておりません。

院内に公衆電話あります

当院では、公衆電話を院内各所に設置しています。通信障害や災害時などにご活用ください。

<公衆電話の主な設置場所>

亀田クリニック 1階・2階・3階・4階

亀田総合病院Kタワー 1階・13階

※連絡先のメモや小銭のご用意をお願いいたします。



また、クリニック内にはスマートフォン(スマホ)の充電スポットを設けています。急な電池切れなどでお困りの際にご利用ください。

<スマホの充電スポット>

亀田クリニック 2階・4階

8月の休診情報

亀田クリニックはお盆期間(8月13日～15日)も通常どおり診察を行います。

ただし、日曜・祝日が休診日となりますので、

8月11日(木)の「山の日」と14日(日)は休診とさせていただきます。お間違いのないようご注意ください。

お願い 入院中の履き物について

入院中は慣れない環境、あるいは活動量の減少にともない、足の筋力が低下して転倒してしまう患者さまが多くいらっしゃいます。

そのため、入院中の履き物は、普段から履き慣れた運動靴など、かかとつきのものをご用意ください。なお、スリッパやサンダルは脱げやすく、摩擦が強いとつまずきやすいため、当院では禁止しています。

入院中の転倒を防止するため、ご理解とご協力をお願いいたします。



bayfm「MEDICAL UPDATES」

FM ラジオ局ベイエフエムの午後のワイド番組『it!! (イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。8月は脳神経外科部長代理の渡邊信之医師が「脳にかかわる病気」をテーマにお話いたします。



漢方のチカラ

東洋医学診療科 南澤 潔

第6話 漢方は長く飲まない…？

これまで漢方医学の成り立ちや歴史についてお話してきました(※)。

さて、現代では漢方はずっと長く飲み続けないと効かないとか、体質を変える・免疫を上げるなど長い目で見ないと効果がわからない、と思われている方が多いでしょう。しかし漢方のバイブル的存在である『傷寒論』は、もともとは短期間で効果をあげることが必要な急性感染症の治療マニュアルという色合いの濃い書物です。

いま我々が風邪や急性の下痢症などを漢方で治療するときには、1日飲んで良くならないようなら、多くの場合それは治療がうまくいったとは考えません。風邪のひき始めなら半日くらい、なんなら1~2回の内服で改善するのが当然、というくらい治療対象によっては即効性があるものです。

たしかに傷寒論は急性感染症の経過について記された書物です。急性の病気との戦いの中で現れる様々なパターンの闘病反応やその経過、それに対してどのような生薬の組み合わせを用いると病気の経過がどのように変化するのか？ がつぶさに観察されています。この「病的な刺激や侵襲によって人の体に引き起こされる反応」は割と普遍的なようで、同じような闘病反応が急性感染症に限らず慢性の経過の病態にも同様に起こることもあるようです。



例えば風邪で有名な葛根湯は、傷寒論には「項背強ばること凡^き凡^き」、つまり「首が凝ってツラく、まるで水鳥が飛び立つ時のように首を反らして耐えている状態」に使うと書かれています。これを応用して慢性的に首や肩が凝って仕方がないという人に葛根湯を飲んでもらうと良くなる人がいます。

かつて傷寒論が主たる治療対象としていた悪性の感染症が何だったのかは定かではありません。チフスであったとも言われていますが、そのようなタチの悪い細菌感染症のほとんどは衛生状態の劇的な改善と抗生物質により、現在では我々の住む日本のような先進国ではほぼ淘汰されてきました。スペイン風邪のような新型インフルエンザであったという説もあります。このようなウイルスによる感染症には現代の医学でもまだまだ良い治療法はないことも多いのですが、新型ウイルスの感染症として猛威を奮った昨今のコロナ禍も、人類の叡智が結集された新型ワクチンであるmRNAワクチンで沈静化の目処がたちました。今の時代、このような急性感染症の治療の主演は当然ながらもはや漢方ではありません。

ただ、数万年前から磨き抜かれてきた「人間の状態を総体的に把握し、それを良い方向に変化させる」技術は、現代医学的には把握できない心身の不調を整え、生体の持っている本来の能力を発揮させる方法として今活用されるようになっていきます。

体調が良くなり、気持ちが明るくなり、やる気が出てくる…。なにかの症状を治すためと当科を訪れた患者さまの少なからぬ方々が、「なんだか日々の生活が楽になった」とおっしゃいます。いわゆるQOL (quality of life: 日々の生活の快適さ) を高めるということは、実は現在の医学にとってはけっこう難問なのですが、漢方は患者さまの心身の状態を最適化(コンディショニング)することが治療の主眼なので、自然とQOLが高まる場合が多いようです。

ただ…体調が良くなるとご飯が美味しくなってしまう、体重が増えてしまう人がいるのがちょっと困りものなのですが…。

※医療エッセイのバックナンバーは下記よりご覧いただけます

<http://www.kameda.com/ja/general/about/magazine/index.html>



医師紹介

えびす ようすけ
蛭子 洋介 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①感染症科 部長代理
- ②内科、感染症、移植感染症
- ③水泳、釣り
- ④皆様のお力になれるよう尽力致します



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>